

GENBA Plus User Interview 6



CREST (モデルハウス)

現場の声に応じて現場Plus 導入
年配の職人もすぐに使いこなして
現場の情報発信&共有が向上

ノーク・ホームズ株式会社 (福井県福井市)

Interviewee : 山崎陽子 様 (設計部 主任)

福井県福井市のノーク・ホームズは地域密着型の住宅会社。設立 9 年目を迎えたばかりの若い会社だが、長期優良住宅を中心とする「高性能でリーズナブル」な家づくりで地域の厚い信頼を獲得している。そんな同社では、今年現場管理アプリを切り替え、現場Plus を核にした新たな現場管理体制の構築を開始した。その狙いについて同社設計部主任の山崎氏に伺った。

「高性能でリーズナブル」な家づくり

— 御社の住宅会社としての特徴は？

山崎氏 ● 「高性能でリーズナブル」な家づくりが一番の特徴ですね。少数精鋭の体制で営業コストを抑えることにより、長期優良住宅など高性能な注文住宅を提供しています。そして、もう一つの特徴は、最新のソフトウェアやアプリを積極的に導入し業務のシステム化を推進していること。これによる業務の省力化、効率化の促進もまた「高性能でリーズナブル」な家づくりに繋がっています。

— 少数精鋭だそうですが、スタッフ数は？

山崎氏 ● 現在は営業が 3 名で設計が私を含めて 4 名です。この体制で年間供給棟数目標として 30 棟を目指しており、現状では



ノーク・ホームズ本社

年間 25 ~ 27 棟前後まで達成しています。

営業部隊は女性スタッフがメインなのですが、皆さん凄腕ぞろい。一番「持っている」営業は 1 人で 10 数棟を動かすことも珍しくありません。一方、設計部隊は物件ではなく作業内容ごとに担当を分けており、図面作成は A さんと B さんと確認申請など申請関係は C さん……という形で進めます。さらに現場管理や見積り等も同様で、この部分は私が行っています。

— 全員が全ての物件に関わっていく？

山崎氏 ● そういことです。ですから、設計部員全員が、稼働中の全物件の状況を把握できているわけです。誰かがお休みでも他のスタッフが対応できる、というメリットがありますね。

選定の決め手は多彩なシステム連携

— 現場Plus の導入経緯をご紹介ください

山崎氏 ● 当社ではもともと他社製の現場管理アプリを使っていました。このアプリで工程表を作成して他の職人さんたちにもそれを

見てもらおう、というのが狙いでした。ところが肝心の現場側から「使い難い」という声が聞こえてきて……職人さんが直感的に操作していても工程表までたどり着けないと言うんですね。さらに工程表の作成もちょっと難しいということで、別のアプリに変えた方が良さだろうという話になりました。

— 現場の方から NG の声は？

山崎氏 ● 現場監督や職人には年配の方も多く、アプリを使うのが苦手な方もいます。無理強いして使われなくなったら意味がありません。

— 現場Plus が選ばれた理由は？

山崎氏 ● 2020 年の冬頃から「別の現場管理アプリで何か良いものはないか？」と探し始め、出会ったのが現場Plus でした。他にもいろいろな製品がありますが、現場Plus は、同時期に導入した住宅・不動産会社向けのクラウドサービスの注文分譲クラウド DX や、設計部で使っている ARCHITREND ZERO と連携できることが決め手となりました。

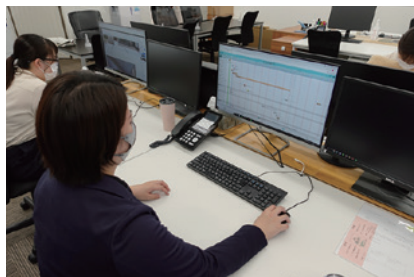
【ノーク・ホームズ 会社概要】

所在地 / 福井県福井市 資本金 / 1000 万円 設立 / 2013 年 8 月
代表者 / 代表取締役 岩佐修一 事業内容 / 注文住宅の設計・施工 他



設計部 主任 山崎陽子氏

現場Plus だけでやりとりして現場を進め きちんと家が建つような体制を目指す



現場Plus で工程表を確認



BUZZ HOUSE (モデルハウス)



CREST (モデルハウス)

■ 年配の職人もスムーズに使用

——そういう事情での切り替えでは、現場への普及は気を遣われたのでは？

山崎氏 ● ええ。契約している 60ID のうち社内で使っているのは 10ID 程度。協力業者さん用が 40～50ID と、ほとんどを占めていますから。特に現場の職人さんには全員にひと通りの使い方を説明しました。以前は勉強会を開いていましたが、今回はコロナ禍ということで一業者ずつご来社いただき、私が直接マンツーマンで説明していきました。

——豊富な機能がありますが、使い方は？

山崎氏 ● メインになっているのは工程表とトーク機能による設計と現場の情報伝達、情報共有ですね。職人さんたちには、現場に入ったら、まず現場Plus で工程表を確認していただくよう徹底しました。また、情報伝達に関しては、設計とのやりとりも基本的には電話でなくトーク機能でのやりとりをメインにするということを徹底しています。やはり電話だと、どうしても「言った／言わない」の行き違いが多いので……記録が残るトーク機能でのコメントを徹底しようと言うわけです。

——現場には受け入れられましたか

山崎氏 ● 現場で本格的に使い始めて 1～2

カ月ですが、「ああ、変わったんだね」という感じですぐ受け入れてもらえました。前のアプリが使い難かったこともあって「この方が使いやすい」という声が多く、今では皆さん普通にチャットのようにやりとりしています。私見ですが、LINE と使い方が似ているので、職人さんも直感的に使えたのではないのでしょうか。基本的には設計と現場のやりとりが多いですが、営業担当もたとえば地鎮祭や上棟日等これで伝えてくれるので、設計現場はその日に向けて手配を進められるわけです。

——その他に使っている機能はありますか？

山崎氏 ● 着工前のお客様の土地など、特に調査等の必要があるため、そういう場合は写真機能も使っています。土地をしっかりと見きわめようということで、営業や工務、設計が現地へ行き、「〇月〇日に現場調査へ行った」という写真を撮って追加していきます。

■ 現場Plus だけで現場を回し家を建てたい

——何かしらの導入効果は感じられますか

山崎氏 ● 職人さんとのやりとりは、以前よりスムーズになった実感があります。前のアプリでは「未読／既読」の違いがわかりにくかったんですが、現場Plus はこれが自動的に付

くので誰が未読か既読かすぐ分かる。不安要素が減りました。工程表も「以前より作りやすい」とのことです。そのせいか、以前のようになかなか工程表ができてこないとか、変更対応が遅いといったトラブルも無くなりました。まだ使い始めの時期なので、導入効果を感じるのはこれからでしょう。

——図面機能はまだお使いでない？

山崎氏 ● 現状では ARCHITREND ZERO で作った図面を PDF 出力した上で現場Plus にアップし、職人さんに現場Plus で見ていただくというやり方をしています。「ZERO-Plus LINK」で ARCHITREND ZERO から現場Plus に直接 PDF 保存できるのは知っていますが、まだ試せていません。早く使いたい機能の一つです。また、工程表の中の「工程チェック」機能とかもぜひ試してみたいですね。

——将来的にはどんな使い方を？

山崎氏 ● 社長からは、将来的には「現場監督がいなくても、最初から最後まで現場が問題なく回り家が建つ」ような家づくりが目標だと言われています。つまり、私たちが現場へ行かず電話も使わずに、現場Plus だけでやりとりして現場を進め、きちんと家が建つような体制……これを目指していきたいですね。

福井コンピュータアーキテクト株式会社

本社／福井県坂井市丸岡町機部福庄5-6 <https://archi.fukuicompu.co.jp>
札幌・盛岡・仙台・水戸・宇都宮・高崎・新潟・長野・さいたま・千葉・東京・川崎・静岡・名古屋・岐阜・福井・京都・大阪・神戸・岡山・高松・松山・広島・福岡・熊本・別府・宮崎・鹿児島・那覇

●導入に関するお電話でのお問合せ・ご相談は



【福井コンピュータグループ総合案内】

0570-039-291

●体験版ダウンロード・資料請求はHPから

福井コンピュータアーキテクト archi.fukuicompu.co.jp